



小笠原 忠興さん 小笠原 徳枝さん 荒木 靖枝さん

今回は池田市畑地域で農作業をされている  
小笠原忠興さん、妻の徳枝さん、  
徳枝さんのお姉さんの荒木靖枝さん  
ご家族をご紹介します。

**原始的な自然農法で環境に配慮した生産を！**

「最近は農薬や化学肥料なども出来て便利になっていますが、環境保全のためにそれらを使わずに原始的な農法で栽培しています。」と語る忠興さん。

現在、環境破壊はもちろん、マイクロプラスチックやスレーバーのビニール袋などを野生動物が飲み込んでしまう等のニュースをよく耳にします。だからこそ、環境に優しい生活をしておられる小笠原さんご家族。例えば、ゴミなどを沢山出さないようになるべく再利用を心掛けたり、食べ終わつたうどんの汁などは一度新聞紙を敷いたバットに移して乾燥させてから捨てるという徹底した対策をされています。

野菜作りも、原始的な自然農法で栽培されています。化学肥料は使わず、落ち葉や野菜くずなどを使用し2年ほど寝かして作った自家製堆肥や、水質も考慮しあながらの井戸水を使っておられます。

**儲けよりも安全、安心で健康や環境に良いものを！**

「自然農法で大変なことは、病害虫の防除です。発芽した芽を食べてしまう虫などにより、野菜が成長しなかつたり、成長過程で虫による食害があつたりします。その為、虫を手作業で駆除しています。もちろん、化学肥料や農薬を使うと収量も増え作業は軽減できますし、儲けを考えると使ったほうが楽ですが、私たちには使いません。その理由は大昔の農業は農薬など使っていませんし、農薬等は適正使用をすれば、健康・環境に影響が出ないとされているものの、健康被害や土そのものが汚染され自然破壊に繋がってし



まわないか心配だからです。誰もが地球温暖化は反対ですが、私達は日常生活も農業も地球に負荷をかけないよう心掛けています」と話す小笠原さんの畠の土はふかふかで、広大な畠には多くの野菜が生き生きと育っています。

### 農業を始めたきっかけ。

「安全、安心で健康に良い野菜を作り、畠の横で無人販売所をしてみたいと思ったからです」と話す徳枝さん。

忠興さんと結婚して約50年、転勤を伴う会社に勤めていた忠

興さんと一緒に徳枝さんも全国各地を飛び回つておられましたが、17年前の忠興さんの退職を機に、池田市の徳枝さんの実家に



### 畠の横の無人販売所で常時販売できるように！

戻つて農業を始めました。徳枝さんと一緒に実家は代々農業を営んでおり、徳枝さんも小さい頃は農業を手伝っていましたが、忠興さんにとっては初めての農業でした。



### お客様の声が嬉しい。

「早朝4時半から作業があり大変ですが、無人販売所に買いに来られるお客様の『新鮮で美味しい』という言葉が励みになる。」と



無人販売所のお客様に大好評

な玉葱、ジャガイモ、サツマイモは絶品だそうです。「今年は300個ほど収穫できたクルミは生で食べるとしてもクリーミーです。 ブラムも甘くておすすめなのです。 非一度食べてみてほしい。」と話す小笠原さんご家族。他にも、里芋の茎であるズイキを乾燥させた芋がらや干し大根、はやとうり、オレンジ、柿、枇杷などの果物を含む多数の品種を販売されています。これから時期は、落花生、根シヨウガ、大根が出荷できるそうで楽しみですね。

話す徳枝さん。

お客様から「スーパーで買ったレタスはプラスチックみたいで美味しいしなかった。やっぱりここ」の野菜は、自然農法で栽培しているからか美味しい。と言われたり、

子どもが食物アレルギーの方からは「農薬や化学肥料などを使っていないので安心して子どもに食べさせられる。」と言われたそうです。中には、スーパーで買った野菜を飼つている青虫に与えたら青虫が死んでしまったから、ここ

野菜が欲しいと買いに来たお客様もいらっしゃったそうです。

無人販売所では、お客様から注文依頼があれば、その場で収穫して販売することもあります。取材をしたその日も常連のお客様からの注文で徳枝さんがサツマイモを収穫して販売していました。そのお客様は「約30分かけて徒歩で買いに来ています。小笠原さんの野菜はとつても新鮮で美味しい、他のスーパーで購入する野菜とは味が全然違うので、2回に一回は買いに来てますね。今収穫し

### 長く農業を続けていくように！

「これからも安全、安心な農作物の生産と環境保全を胸に刻み農業を続けていけるように頑張ります。」と話す小笠原さんご家族。是非一度、小笠原さんが育った白慢の野菜を食べてみてはいかがでしょうか。



て頂いたサツマイモもすごく立派で、私は小笠原さんの作る野菜の大ファンです。」と笑顔で話してくれました。